

事故の原因と安全対策等

これまでの日米間の確認作業を経て、日米が以下の認識を共有

<事故の原因>

- ・ 航空機の機能を発揮させるために必要な構成品の中において特定の部品の不具合が発生したことが事故の原因
- ・ 今回の事故において、HCE（ハード・クラッチ・エンゲージメント）（※）は発生していない。

（※）プロペラとそのエンジンをつなぐクラッチが離れ、再結合する際に衝撃が発生する現象

<安全対策>

特定された事故の原因を踏まえ、次に掲げる安全対策を措置

- ・ 異常探知システムによる予防的点検と維持整備の頻度の増加
- ・ 航空機の整備記録の確認
- ・ 通常時・緊急時の搭乗員の手順の更新
- ・ 運用計画の更新

<機体の安全性>

- ・ オスプレイの設計と構造に問題はない



安全対策措置の様子（イメージ）

今回の事故に関する米軍の原因分析や安全対策は、防衛省・自衛隊の専門的な見地や、運用者の立場からも合理的であると評価しており、上記の安全対策の措置を講じることで、陸上自衛隊のオスプレイも含め、安全に運用を再開できるとの考え